

「オクラの花粉(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

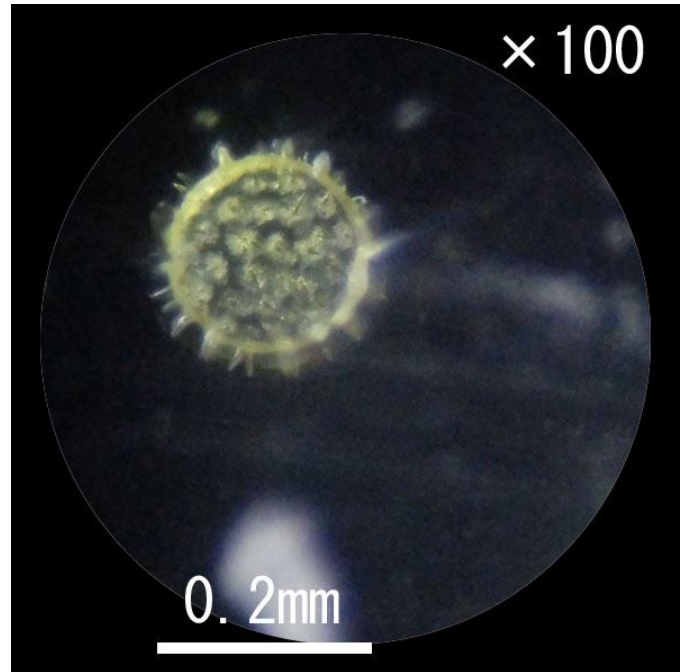
オクラの花の観察中に、子どもの指先についたものは、オクラの花粉だった。子どもたちのほとんどは「花粉」そのものの存在を知らなかったようだ。私は教室に常に顕微鏡を1台置いてあるので、すぐに観察させることにした。



幸い、花粉に気付いた女兒が、セロテープに花粉をつけて持ってきてくれた。顕微鏡観察用ではなく、もともとは観察カードに貼ろうと思っていたらしい。それをそのままスライドに貼って、すぐに顕微鏡のステージに置いた。



花粉の観察は、通常透過光を使う。しかし、本来の花粉の立体感や色を実感させるには、反射光のほうが断然良い。写真は、100円ショップで買ったLEDライトを、フレキシブルアームにくっつけた「簡易反射光源装置」である。これは非常に役立つ。



反射光でオクラの花粉を観察すると、このように見える。ほぼ球形で、周囲にトゲが多い。大きさもスギやイネの花粉よりずっと大きく、虫媒花粉の特徴を備えている。朝顔の花粉によく似ている。私は今まで、オクラの花粉の教材性にはあまり着目していなかった。しかし、5年の理科授業でも十分使えそうだ。



観察が終わった日、子どもたちはオクラの鉢を大切に持ち帰った。夏休みには、たくさんの花が咲き、実は食卓を賑わせるだろう。

【こどもの観察カードから】

「わたしはオクラのカフンをはじめて見ました。カフンはき色くて、すきとおってて、丸くて、トゲトゲがあって、コンペー(金平糖)みたいでした。でもカフンって何のためにあるのかな？」